

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

□1 調査の目的

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

□2 調査の対象学年

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

□3 調査の内容

（1）教科に関する調査 【小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

小・中学校ともに、タブレット端末からオンライン回答

- 児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

□4 調査期日

教科に関する調査：令和7年 4月17日（木） ※全国一斉実施

質問調査：小学校 令和7年 4月18日（金）～ 4月30日（水）の決められた日

中学校 令和7年 4月14日（月）～ 4月17日（木）の決められた日

□5 調査を実施した児童生徒数

	児童数	生徒数
全国（公立）	936,576人	871,097人
全国（国立）	6,136人	9,128人
全国（私立）	6,596人	16,536人
青森県（公立）	8,094人	7,889人
むつ市	353人	393人

□6 学力調査の結果

1) 全国の平均正答率を「100」とした到達率及び全国・青森県・むつ市の平均正答率

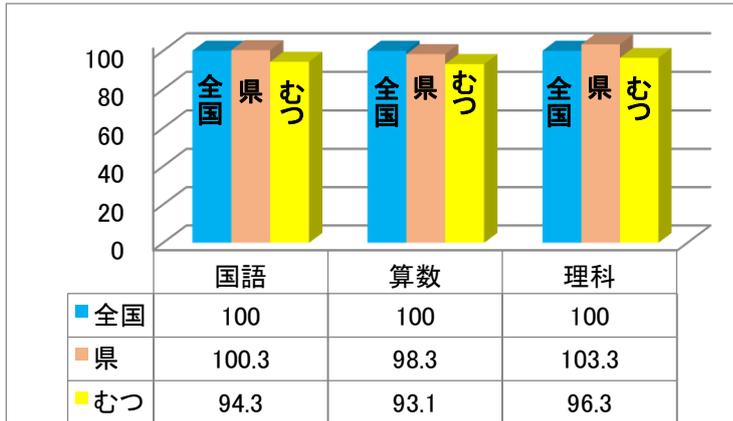
※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の平均正答率の数値は整数値での発表となっている。

※教科間及び学年間の定着度の差異を把握するため、ここでは上記指標を用いている。

☆→前年度の小学校6年生及び中学校3年生との異集団比較

◇→中学3年生は令和4年度（小学6年時）との同一集団比較

■①令和7年度 小学校6年生



国語、算数

全国平均、県平均を下回る。
特に、国語と算数が課題である。

* 令和7年度平均正答率

	国語	算数	理科
全国	66.8	58.0	57.1
青森県	67	57	59
むつ市	63	54	55

☆ 令和6年度平均正答率

	国語	算数
全国	67.7	63.4
青森県	70	64
むつ市	65	60

■②令和7年度 中学校3年生



国語、数学

全国平均、県平均を下回る。
特に、数学が課題である。

◇ 令和4年度（小学6年時）平均到達率

	国語	数学	理科
全国	100	100	100
青森県	103.7	99.7	104.3
むつ市	97.6	94.9	96.4

* 令和7年度平均正答率

	国語	数学	理科
全国	54.3	48.3	51.5
青森県	54	46	52
むつ市	52	40	50

☆ 令和6年度平均正答率

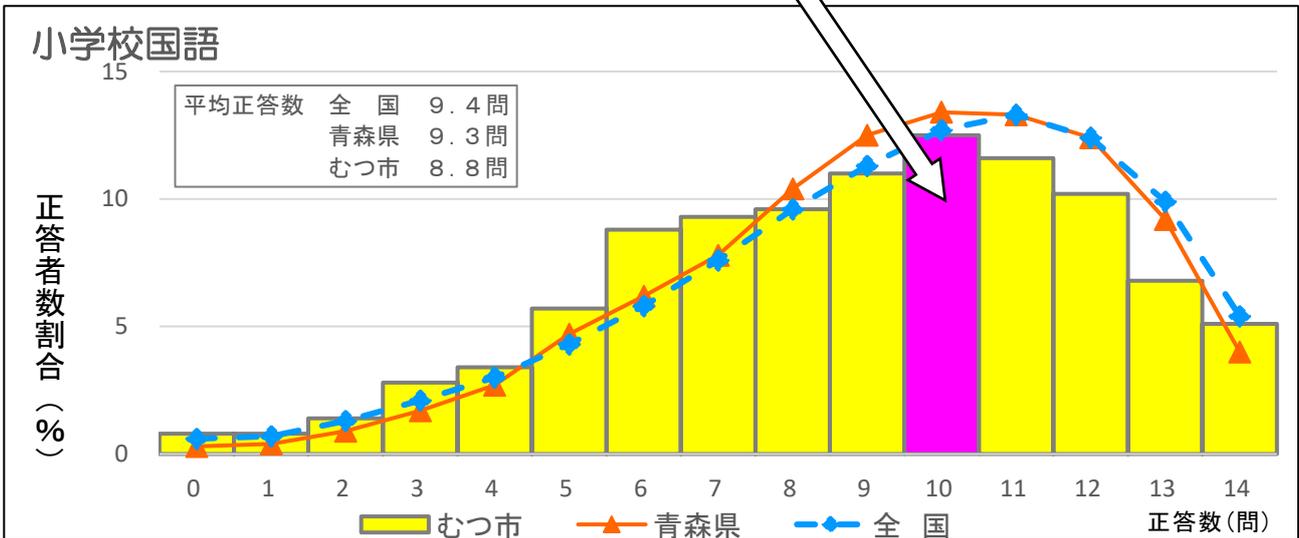
	国語	数学
全国	58.1	52.5
青森県	56	50
むつ市	56	51

2) 各教科の正答数分布グラフ (むつ市→柱状グラフ、青森県・全国→折れ線グラフ)

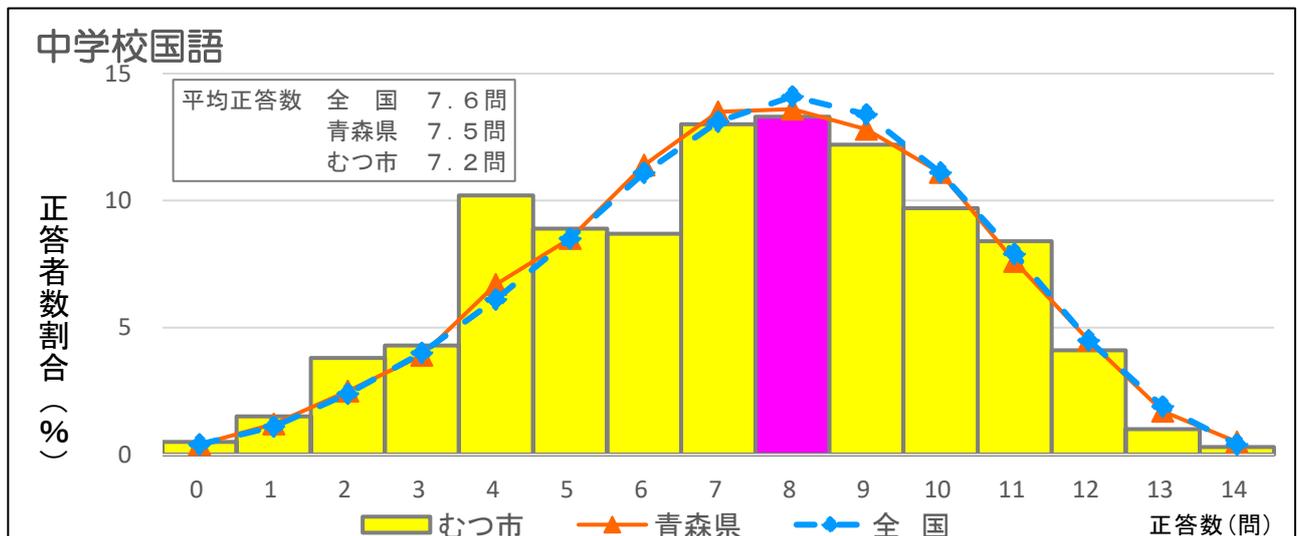
※横軸は正答数、縦軸は正答者数の割合を表している。

※中学校理科はC B T方式 (タブレット端末からの解答) であり、出題内容に個別問題が含まれていることから、正答数分布は公表されていない。

※濃い色の部分は、全国及び県の平均に到達するために必要な正答数を表している。

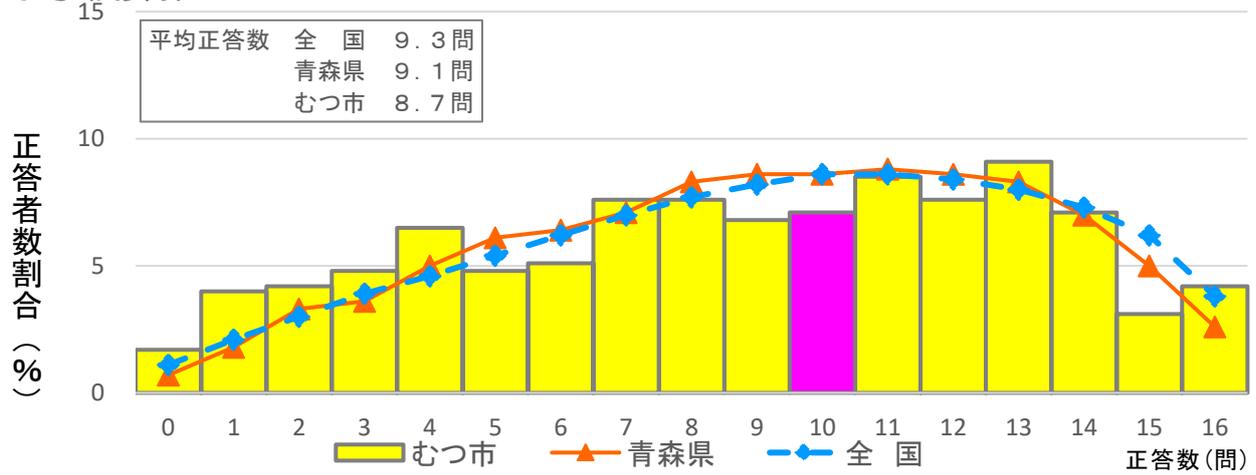


*全国、青森県と類似の形状となっている。下位層の底上げに向けて、個別指導やデジタル教材等を活用した学習など、確かな理解と定着を図る授業づくりが必要である。



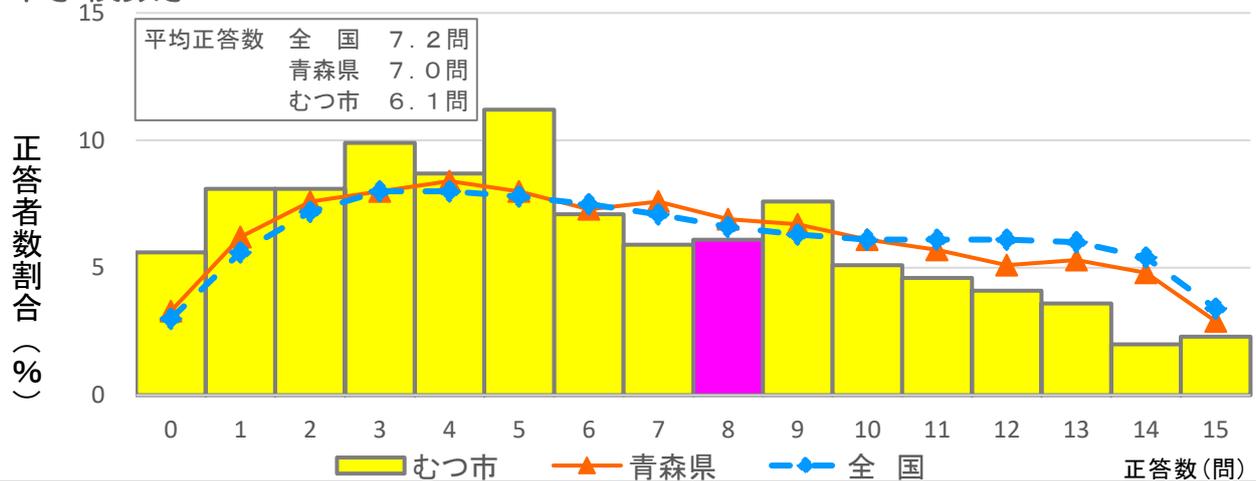
*全国、青森県と類似の形状となっている。中位層が多くいることから、個別指導が必要な児童生徒に配慮しつつ、ねらいを高く設定した授業を展開する必要がある。

小学校算数



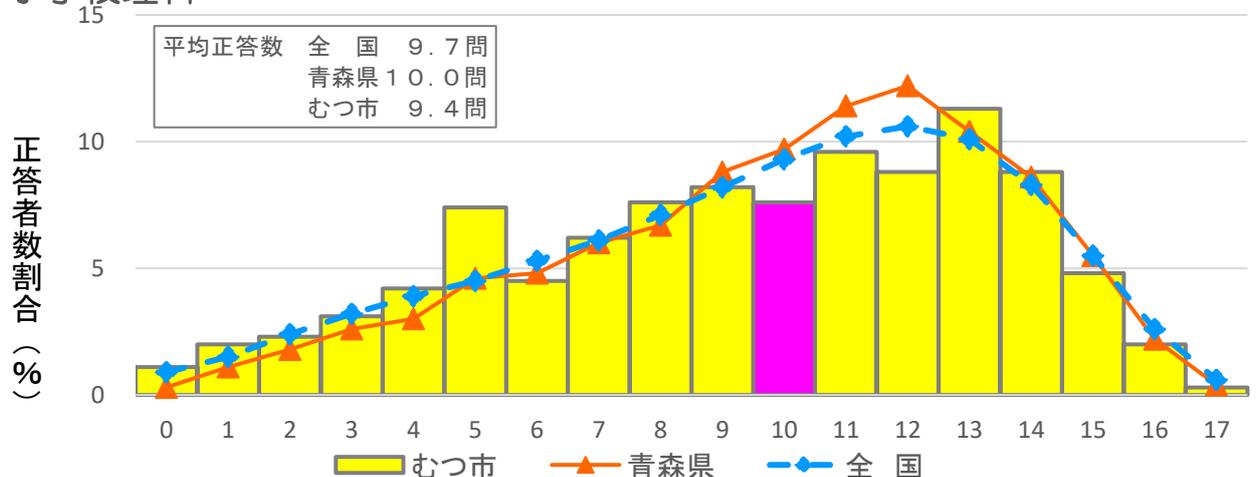
*全国、青森県と類似の形状となっている。習熟度別学習を含め、児童の定着度を確かめながら個別最適な学びを目指した授業による下位層の底上げが求められる。

中学校数学



*全国、青森県と比べ、上位層が少なく、低位層が多くなっている。習熟度別学習や個別指導、デジタル教材等を活用した学習を通して確かな定着を図る必要がある。

小学校理科



*全国、青森県と類似の形状となっている。下位層の底上げが求められるため、観察や実験などの体験を言語化しながら問題解決する授業づくりが求められる。

小学校 6 年国語

身に付いてきている力

- ① 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力
- ② 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力

育てたい力

- ① 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する力〔5・6年 A話すこと・聞くこと（1）ア〕
- ② 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力〔5・6年 B書くこと（1）エ〕
- ③ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力〔5・6年 C読むこと（1）ウ〕

中学校 3 年国語

身に付いてきている力

- ① 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力
- ② 文章の全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える力

育てたい力

- ① 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力〔2年 A話すこと・聞くこと（1）ウ〕
- ② 自分の考えが伝わる文章になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える力〔1年 B書くこと（1）ウ〕
- ③ 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える力〔1年 B書くこと（1）エ〕
- ④ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力〔1年 C読むこと（1）エ〕

⇒今後「全国学力・学習状況調査」の問題や結果データなどを分析・活用する取組をされると
思いますが、その際に大切にしたいポイントです。

①学習指導要領解説の熟読を！

ご承知のとおり、学習指導要領解説には、どの学年でどんな内容を学習するのが書かれています。教科書の指導書、ご自身の経験だけに頼ることのない指導で資質・能力の確実な育成を目指す必要があります。

担当している学年以外の学年及び他校種との系統性を把握して単元構成や指導計画を組み、児童生徒の視点で授業づくりをする上でも学習指導要領解説が拠り所となります。

また、授業のねらいにも直結する部分になりますので、学習指導要領の意図することをご確認ください。

②適切な言語活動の設定と、振り返りを！

どの領域の学習でも「知識及び技能」を習得させてから「思考力、判断力、表現力等」の育成をすることは学習活動として適切ではありません。また、「言語活動」が学習のねらいのようになってしまうことも適切とは言えません。理論を教えて身に付いたかではなく、例えばプレゼンテーション等の言語活動を通して、ねらいに対する自身の学びを振り返らせ、さらに学習を深めたり補ったりする学習を行うような構造が必要です。教材の特長を生かすこと、ねらいを達成するために適切な言語活動の設定をすること、自分は何ができるようになったのか自覚させるための振り返りを行うことが大切です。

小学校 6 年算数

身に付いてきている力

- ① 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることについての理解
- ② 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力

育てたい力

- ① 目的に応じて適切なグラフを選択して数量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力
〔3年 Dデータの活用(1)ア(イ)〕〔5年 Dデータの活用(1)ア(ア)、イ(ア)〕
- ② 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する力
〔5年 A数と計算(5)ア(ア)、イ(ア)〕
- ③ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する力
〔3年 A数と計算(4)ア(ア)〕〔3年 C測定(1)ア(ア)〕
〔4年 C変化と関係(1)イ(ア)〕〔5年 Dデータの活用(2)ア(ア)〕

中学校 3 年数学

身に付いてきている力

- ① 相対度数の意味についての理解
- ② 必ず起こる事柄の確率についての理解

育てたい力

- ① 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める力〔2年 C関数(1)ア(ア)〕
- ② 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力〔2年 A数と式(1)イ(イ)〕
- ③ 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する力〔2年 B図形(2)イ(ア)〕

①学習指導要領解説の熟読を！

特に算数・数学では、学習内容の系統性が明確であるため、担当学年だけでなく、前後の学年との繋がりを意識することが重要です。単元構成や指導計画の作成、児童生徒のつまずきへの対応にも、学習指導要領解説は大いに参考になります。授業のねらいを的確に押さえるためにも、改めてその趣旨をご確認ください。

②算数的活動・数学的活動の工夫と、効果的な振り返りを！

算数・数学における「数学的活動」とは、問題を見付けたり、考え方の見通しを立てたり、解決や振り返りをしたりする学習の過程を通じて、数学的に深く考える力を育てる活動です。これらの活動を通じて、知識及び技能の習得を確かなものにするとともに、「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ります。例えば、実生活の事象を数理的に捉えて問題を設定する活動や、図や式、言葉を使って自分の考えを説明・表現する活動、他者の考えと比較しながら多面的に考察する活動などが挙げられます。

学習の過程において、「なぜそうなるのか」「どのように考えたのか」といった思考のプロセスについて、児童生徒自身が考える時間を設けるとともに、教師が問い返しをすることで、思考を深め、理解の定着を図り、次の学びへと繋げることができます。ねらいに即した活動の設定と、指導の目的や意図に応じた振り返りを意識した授業づくりが大切です。

小学校 6 年理科

身に付いてきている力

- ① 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを理解
- ② 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎの理解

育てたい力

- ① 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることへの理解〔3年A(5)電気の通り道〕及び〔3年A(3)磁石の性質〕※単元横断型
- ② 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する力〔3年A(5)電気の通り道〕
- ③ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する力〔5年B(1)植物の発芽、成長、結実〕

中学校 3 年理科

身に付いてきている力

- ① 情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能

育てたい力

- ① 植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現する力〔第2分野(3)生物の体のつくりと働き〕
- ② 物質の分解に関する知識を概念的に理解する力〔第2分野(3)生物の体のつくりと働き〕及び〔第1分野(4)化学変化と原子・分子〕※領域横断型

全国学力・学習状況調査の目的の一つは、各学校の指導に役立てることです。この調査結果を単なる成績として受け取るのではなく、授業づくりのメッセージとしてポジティブに解釈し、指導改善のための貴重な契機としたいと考えます。

① 体験（実験・観察等）と言語の往還を意識すること

理科では、従前より「実験や観察等を通じた問題解決」を重要な学びとして位置付けています。実験・観察をさらに効果的な学びにするためには、実験や観察の予想や考察を言葉や図で表現したり、逆に言語化された事象を実験で再現したりする活動を通して、「体験と言語の往還」を繰り返すことで、知識や技能の理解をより一層深めることが大切であると考えます。なお、実験・観察等の「等」には「ものづくり」も含まれており、特に小学校では、ものづくりを通じた問題解決を複数の単元で実施することが求められています。

② 単元（ミクロ）を大きな枠組み（マクロ）としてとらえること

今回の出題は、単元や領域を横断する特徴が見られました。これは、単元ごとの知識を結び付け、より大きな概念として捉え直すことの重要性を示しています。例えば、小学校5年生で「植物」「動物」「人」の単元を学習した後、共通点や差異点を整理することで、これらを「生命」という学びとして捉えられます。指導者は、個々の授業や単元（ミクロ）を「A物質・エネルギー」や「B生命・地球」といった大きな枠組み（マクロ）の中で位置付ける視点が必要です。この機会に、改めて「理科の見方・考え方」や「A・B領域の目標」を確認することが求められます。

中学校でC B T方式の調査が導入されたことで、実験や観察により近い出題・回答が可能になりました。これは、理科で長年大切にされてきた、実験や観察を通じた日常の事象への関心を今後も高めていくべきだという、重要なメッセージだと解釈できます。

□7 質問調査の結果（本市の実態）

【全体考察】

下記の項目において「○」とされているものは、全国や県と比較してポジティブな評価が上回っている当市の児童生徒の強みであり、「◆」は全国や県との比較においてポジティブ評価が低い傾向であり、支援等対策が必要と思われる弱みの項目である。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 自分にはよいところがあると思っている児童生徒が多く、全国平均、県平均より高くなっている。また、先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒が多く、全国平均よりも高い。先生方が児童生徒としっかり関わることが自己肯定感の高まりにつながっている。
- 将来の夢や目標をもっているという回答は、小・中学校ともに全国平均より高くなっている。
- 多くの児童生徒は、人が困っているときに進んで助ける、いじめはどんな理由があってもいけないことだ、人の役に立つ人になりたいと考えている。
- ◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒は全国平均より多いが、約70%である。今後、学習面だけでなく様々な悩みをいつでも相談できる環境づくりと児童生徒にSOSの出し方を身に付けさせることが必要になってくる。

<学習習慣、学習環境等>

- ◆学校の授業以外での勉強時間や読書の時間は小・中学校ともに全国平均、県平均より短い傾向がある。また、新聞を読んでいる頻度は全国平均、県平均より多いが、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童は約80%、生徒は約70%である。

<ICTを活用した学習状況>

- 多くの児童生徒が、学習の中でパソコンやタブレットなどのICT機器を使って文章を作成すること、情報を収集すること、プレゼンテーションを作成することができると回答している。実際の使用についても、週3回以上使用していると回答した割合は、小・中学校ともに全国平均、県平均より高くなっている。今後も積極的な活用に向けた支援を継続していく必要がある。

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 多くの児童生徒が、友達や周りの人の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組んでいる。また、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると捉えている。日頃から「話し合い活動」を取り入れるなど、工夫した授業づくりを行っている成果と考えられる。
- ◆自分の考えがうまく伝わるように話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童生徒は約60%（全国平均約65%）である。自分の考えをもつこと、必要な情報を選択・整理して考えを発表する活動の工夫が必要である。

<総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳>

- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒は約90%である。学級をよりよくしようという意識をもって学校生活を送っていると考えられる。
- 道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒はともに90%を超えている。多くの学校で「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業が展開されていることがうかがえる。

<学習に対する興味関心や授業の理解度等>

○多くの児童生徒は、どの教科の授業も、将来、社会に出たときに役に立つと回答している。

◆勉強が好きだと回答した児童生徒は、国語では約60%、算数・数学では約50%である。理科においては、小学校では約90%だが、中学校では約60%である。学習活動を工夫したり、学習したことを普段の生活でどのように活用できるかを児童生徒に考えさせたりするなど、児童生徒の興味・関心を高めるようにする必要がある。

◆書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたと回答した児童生徒は、小学校では国語及び算数で約20%、中学校では国語で約30%、数学で約50%であり、全国平均、県平均よりやや高くなっているが、普段から書く活動を取り入れることはもとより、最後まで書かせること、フィードバックすることも求められる。

【総括】

上記の結果から、当市の児童生徒の意識は以下のように考えられる。

当市の児童生徒は、自己有用感が高めであり、将来に対しての夢や目標ももっている。また、困っている人に対しても助ける気持ちやいじめに対しても理由を問わず「やっちはいけない」という気持ちがあり、さらに、人の役に立ちたいという心も強くもっている傾向がある。

しかし、自分が不安なときや困っているときに周囲の大人に相談できない児童生徒が少なからずおり、この点のサポートが課題となっている。

学習習慣に関しては、授業時間以外での家庭での勉強時間が短い傾向にあることが課題として挙げられる。ゲームの時間とSNSや動画視聴の時間等が関係していると思われる。

授業に関しては「話し合う活動」は取り入れられているものの、学んだことを生かし、自分の考えをまとめる部分は弱いと認識している児童生徒が多い。このことから授業では、学んだ知識及び技能を活用することと課題に対して自分の考えをもたせる展開を意識的に盛り込むことが課題であると思われる。

学習（教科）に対する興味・関心については、どの教科も将来に役立つとは思っているものの、教科そのものへの関心が薄く、また、記述を求められる問題に対しては諦める傾向の児童生徒も少なからずいる。学習（教科）に対する興味・関心や臨む態度の育成を図るためにも、題材との出会い方や授業展開の工夫など、知的好奇心を刺激する工夫が必要だと思われる。

当市の児童生徒の傾向は、これまで同様「心はいいものをもっているが、その心を生かす基本的な力とスキルに足りない部分がある」ということが言える。これらの課題の解決には心にこれまで以上に寄り添う個別の支援と授業改善及び知的好奇心を刺激する仕掛けの工夫が必要ではないだろうか。

□8 学力と相関関係があった質問項目

質問の回答と学力の相関関係を比較し、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が、そうでない回答をした児童生徒の平均正答率よりも全教科10ポイント以上高い内容である。

ただし、相関関係については、あくまでも「～が関係ありそうだ」という傾向を捉えるものであり、「正答率が高いのは～が要因だ」というように原因を特定するものではない。

■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
- 読書は好きですか。
- 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成したり、情報を収集したり、自分の考えをわかりやすく伝えたりすることができると思いますか。
- 前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

■ 小学校6年生

- 自分には、よいところがあると思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

■ 中学校3年生

- 新聞を読んでいますか。
- 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

【総括】

特に、小学校6年生において、相関関係が多く見られた。小・中学校において、上記項目の意識が向上するような教育が日常的に行われる教育課程を実践していくことが、児童生徒の学力の下支えになると思われる。教科の学習だけでなく、特別活動や道徳科の授業づくり、学校づくりの指標として捉えていくことが必要である。

□9 むつ市教育委員会の学力向上の取組

○児童生徒の意欲向上に向けて

むつ市総合学力調査結果の個票の見方を示した資料を作成し、調査対象初学年である小学4年生に学校を通じて説明・配付し、事後の学習に生かすことができるようにしています。

※サンプル資料

教科	合計	平均	偏差	標準	順位
国語	52.0	52.0	0.0	0.0	0
数学	38.7	55.1	31.8	59.5	55.6
英語	91.2	70.5	90.0	74.0	92.9
社会	80.6	80.1	85.7	88.0	70.0
理科	52.6	57.2			

【今の自分を知る】
 自分の結果と、むつ市の結果とを比べてみましょう。
 今回がんばった教科と、もう少し頑張る必要があった教科も確かめてみましょう。

【教科を知る】
 各教科の、良かった内容・もう少しがんばる必要があった内容などめてみましょう。
 得意な教科でも苦手な内容や、苦手な教科でも得意な内容なども確認しましょう。

A I 機能搭載のタブレット端末用ドリルを導入し、個々の正答率やむつ市総合学力調査結果を反映した問題に取り組むことができます。

2年 すべて 国語 数学 英語 社会地理 社会歴史 理科

国語 漢字ドリル シードポイント 0 グレード 0 0字 / 400字

数学 暗記計算 (計算) シードポイント 0 グレード 0 0 0

英語 暗記計算 (英単語) シードポイント 0 グレード 0 0 0

英語への興味・関心を高めるために、英検の半額補助や、英検 I B A の実施と英検 E S G の推奨を行っています。

(いずれも、受験案内や手続等に関する補助を実施。)

英検 I B A 中学生全員を対象

英検 E S G 希望する小学校の6年生を対象

○教員の指導力向上に向けて

各教科の授業づくりや就学事務、幼・保・小連携など、教員の指導力向上や学校運営及び教育活動の充実を図るための講座を開催しています。

教員が、県外の最新情報を学ぶことによって、資質・能力を伸ばすことができるよう、研究大会への派遣助成を行っています。

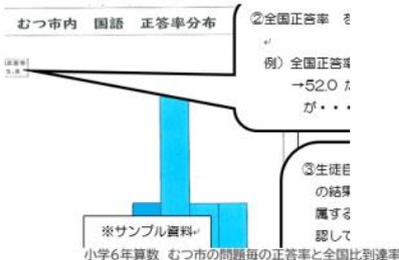
むつ市総合学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果をもとにした資料を小・中学校に提供し、事後指導の充実を図っています。

計画訪問や要請訪問の他に、学校からの要望に応じて随時訪問や日常ミニ訪問を行い、学力の向上や生徒指導の充実など各校の取組を支援しています。

令和7年度教職員研修講座等一覧

むつ市教育研修センター

新	講座名	対象	内容
1	むつ市就学事務説明会・就学相談研究会 ◇5月12日(月) ◇13:30~16:00 ◇むつ市役所	むつ市内小・中学校教員 むつ市内幼稚園・保育園(附)等の希望者 -むつ必修講座-	むつ市の就学事務についての説明と、各学校や保育園・幼稚園等における就学相談の留意点等についての講義を行います。 ◇講師 未定
2	タブレット活用講座 ◇7月23日(水) ◇9:00~16:00 ◇第三田名部小学校	むつ・下北小・中学校教員 -希望講座-	授業におけるタブレット端末の活用に向け、実施されている学校の取組内容の共有と、タブレット端末の操作・活用についての講義・演習を行います。 ※午前は基本的な内容を、午後は応用的な内容を行う予定です(両方の参加も可能です)。 ※講座で使用する端末はchromebookです。 ※むつ市以外の先生方には、講座当日にchromebookを貸し出します。



随時訪問

通年

提案授業参観

↓

研究協議会等

日常ミニ訪問

※指導案不要

通年

日常の授業参観

↓

授業者との話し合い等

○ICTの活用として

児童生徒にタブレット端末を配付し、授業や家庭学習などの様々な場面で有効活用しています。



文部科学省「学びの保証・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」を活用しデジタル教科書を導入しています。



市内全小学5年生～中学3年生

希望する学校

学習や活動の一層の充実を図るために、児童生徒のタブレット端末に随時、アプリを追加しています。



子供達の活動の可能性をひろげるために

市内の小・中学校に、電子黒板及び大型モニターを配備し、視覚的に理解しやすくしたり、考えを共有しやすくしたりしています。



○人員配置等による支援として

小中一貫教育非常勤講師を配置し、複式指導の解消や乗り入れ授業など、実態に即した指導を行っています。

(市内4つの中学校ブロックに1名ずつ配置)

小中一貫教育非常勤講師



スクールサポーター（支援を必要とする児童生徒のサポートをする）を配置し、児童生徒の活動を支援しています。

スクールサポーター



市内小学校8校、
中学校4校に計36名

外国語指導助手（ALT）を配置し、外国語活動や外国語、英語の授業をサポートしています。

ALT



5名で分担して、
市内全小・中学校を
訪問

○その他

各校に新聞を配備し、新聞を読む習慣の育成や、授業での調べ学習等に活用できるようにしています。また、新聞記者が来校して授業を行う「出前授業（希望制）」も実施しています。



一般・児童生徒向けサイト



教職員専用ページ



ホームページ「むつ市教育委員会 学校教育課 情報ポータル」を開設し、市内小・中学校の紹介や、学習支援サイト、公募事業等を掲載しています。

学習に役立つコンテンツ・リンク
指導に役立つコンテンツ・リンク

□10 保護者の皆様方へ

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。保護者の皆様にとっても、結果は心配事の一つであると思いますので、我々教育委員会では、子どもたちの学力向上に向けた取組を一層進めていきたいと考えております。

本市では、第3次「むつ市学校教育プラン（令和5年度～令和9年度）」に基づいた取組を行い、推進目標として『郷土を愛し、高い志を持って 主体的に未来を切り拓く人づくり』を掲げております。また、『めざす学校像』の一つとして『学ぶ力を高める学校』に取り組んでいくこととしております。

デジタル技術の急速な進化など、子どもたちを取り巻く環境は変化が激しく、予測不能な状況となっています。その時代を生き抜く子どもたちの『学ぶ力』を高め、未来を切り拓く人材を輩出するために全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力、ご支援をお願いいたします。

また、特に、以下の点について、ご家庭でのご協力をお願いします。

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を引き続きお願いします。
- ・タブレット端末の持ち帰りでは、学校での事前指導を踏まえ、家庭での約束事を決め、効果的な活用をお願いします。
- ・頑張らせて褒めてやることで子どもは伸びます。自己肯定感を高められるように、ご家庭での温かい声掛けや励ましをお願いします。